

## 近時雜聞

□本號の口繪は故淺井忠氏の巴里遊學中寫生せられしもの、圖はO W四ツ切大にして滿谷國四郎氏の所藏に御座候

□淺井氏は吾邦洋畫界一方の雄としてその發展に大に力を盡されしと同時に、世人が水彩畫なるものを知らざりし三十年以前に於て屢々其輕妙の筆を振られたることある由にて、いはば水彩畫の鼻祖とも可申候、殊に近年關西地方に洋畫の趣味を普及せられ將來極めて有望なりしに一朝易筆せられしは惜むべき限りに候

□丸山晚霞氏は只今小笠原島にて寫生に餘念なきこと、存候、同氏は多年の目的たる線の研究のほかに、同地の風俗其他にも充分の觀察を齎らし歸らるゝ筈に付、歸京の上は南洋美觀を主題として「みづゑ」特別號を出すべく計畫に御座候

□本誌の發展については、種々相談の結果特別讀者を募る事に致候、詳しくは廣告欄にあり、苟も斯道に趣味を有し且本誌に御同情ある諸君は奮て御賛成御申込下されたく候

△日本水彩畫會研究町にては舊臘盛んなる忘年會を催したるが、去月二十六日更に新年會を催ほし、講習所時代の人々も參會して極めて盛會なりし。

△丸山晚霞氏は一月十日兵庫丸にて小笠原島へ寫生旅行を試みられたり、同行者は研究所々員志賀正人、松山忠三兩氏にして歸京の時日は未定なりと

△太平洋畫會展覽會は上野公園二號館南鄙にて五月十五日より六月十三日迄開會の筈

## 紹介

◎漫畫天地

小杉未醒著

京橋區木挽町四丁目 佐久良書房

四六判美粧 定價九十錢

未醒氏漫畫の妙は今更言ふも野暮なり、收むる處二百圖、皆一度世に出しものとはきけど幾度繰返し見ても飽く事知らず、此種の筆は所謂天才に待つ處多く、常人のよく模倣し能はざるものなれど、漫畫に趣味を有し毛筆線畫を學ばんとする人には最も

よき參考書なるべし。瓊音、櫻菴、萍水、鳥水、銀月、政女、紅蓮洞、思水、孤雁、嶺雲、獨歩、葉舟、うつば、等文壇名家の畫に題せる小品文皆大に誦すべし

◎方寸 美術雜誌も多く世に出でゐるが方寸程商賣氣のない雜誌は他にはあるまい挿繪の選擇もよく版の様式をいろ／＼試みたのもよく記事にはまゝ樂屋落もあるが思ふことを直言して憚らぬ態度は大に快い殊に秋季展覽會號の阪本氏の固理窟は近來の好文字であつた

◎寫眞雜誌無名會

第一號

寫眞専門家の會合なる無名會の機關雜誌にして、美はしき畫五葉を挿めり、裝釘も印刷も用紙もコツたものにて、寫眞雜誌中の白眉といふべし(二十五錢、京橋區築地二丁目無名會本部發行)

◎美術評論

第一號

繪畫鑑賞法の著者梅澤和軒氏の主宰する美術雜誌にして文藝方面にも及び趣味極めて饒なるは喜ふべし(毎月一回、一部七錢、芝區兼房町美術評論社發行)